



鈴木 瑛一 先生

#### 略歴

- 2011年 東京歯科大学卒業
- 2014年 日本歯周病学会認定医
- 2016年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）  
東京歯科大学水道橋病院（歯周病学講座）レジデント
- 2017年 東京歯科大学歯周病学講座 助教  
AAP（アメリカ歯周病学会）International Member
- 2018年 歯科鈴木医院 副院長  
東京歯科大学歯周病学講座 非常勤講師



小方 頼昌 先生

#### 略歴

- 1984年 日本大学松戸歯学部卒業
- 1988年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了
- 1988年 日本大学助手松戸歯学部歯周病学講座
- 1991年 日本大学講師松戸歯学部歯周病学講座
- 1992～1993年 カナダトロント大学歯学部歯周生理学部門 研究員
- 2001年 日本大学教授松戸歯学部歯周病学講座
- 2005年 日本大学教授松戸歯学部歯周治療学講座

## リグロス®が変える歯周組織再生療法の実際

### ～「リグロス®」を使用した歯周組織再生療法の基本と臨床応用のポイント～

東京歯科大学歯周病学講座・歯科鈴木医院 鈴木 瑛一

歯周組織再生医薬品である遺伝子組換えヒト塩基性線維芽細胞増殖因子（bFGF, FGF-2）製剤「リグロス® 歯科用液キット」の承認と保険適応により、歯周組織再生療法はより身近になった。しかし、その作用機序や使用の際のルールは大変重要である。本セミナーではリグロス®を使用した再生療法の基本的事項及び臨床上のポイントについて、症例を通して解説する。また当講座で開始しているリグロス®と天然骨ミネラル（DBBM）との併用効果についてのランダム化比較試験の概要と結果の一部を紹介する。

リグロス®による再生療法が正しく行われ、患者QOLの向上に寄与するための一助となれば幸いである。

### ～歯周組織再生剤「リグロス®」による歯周組織再生～

日本大学松戸歯学部歯周治療学講座 小方 頼昌

リグロス®の適応症は、歯周基本治療終了後のプロービングポケット深さ4mm以上、骨欠損深さ3mm以上の垂直性骨欠損部位であり、その適応はGTR法に準ずるが、広範囲に手術を行う場合や、水平性骨欠損に近い症例等に使用する場合もある。しかし、添付文書には「術後に歯肉弁の著しい陥凹を生じると予想される骨欠損部位に対しては、他の適切な治療法を考慮すること」とされており、基本的には、2～3壁性の垂直性骨欠損が適応となる。

リグロス®塗布時には、止血が確実で、根面が血液で汚染されていないことがポイントであるため、術前の確実な歯周基本治療の実施が必要である。しかしながら、浸潤麻酔下での過剰なスケーリング・ルートプレーニングを歯周基本治療中に実施すると、骨欠損部に歯肉退縮が生じ、リグロス®を用いた再生療法後に歯槽骨が再生できるスペースが確保できなくなることから、大きな歯肉退縮が生じないように配慮して歯周基本治療を行う必要がある。

フラップ手術と同様の術式で骨欠損部の肉芽の除去を行い、スケーリング・ルートプレーニングを行った後、滅菌生理食塩水で十分洗浄し、血液又は唾液で根面が汚染される前にリグロス®を歯根面に塗布し、その後歯槽骨欠損部を満たす量のリグロス®を塗布し、縫合を行う。術後は基本的には歯周パックはしない。

今回のランチョンセミナーでは、リグロス®を使用した歯周組織再生療法の実際について紹介したい。